

なんケア通信

第35回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和5年4月7日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：39名(介護事業所関係者 20名、医療機関関係者 15名、
地域包括支援センター 1名、調剤薬局 1名、その他 2名)

演題 『 経口摂取を続けるために 』

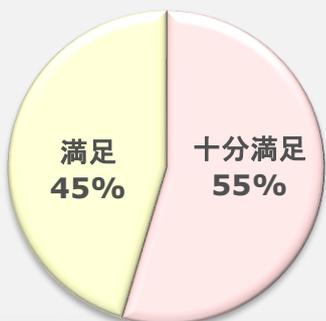
1. 噛んで食べる大切さ 御野場病院 歯科衛生士 藤野 彩矢
2. 肺炎にならないお口を作ろう! 御野場病院 看護師 摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 佐藤 信子
3. 摂食嚥下リハビリテーションの立場から 御野場病院 副院長 小林 佳美

今回は「経口摂取を続けるために」というテーマのもと、歯科衛生士・摂食嚥下リハビリテーション学会認定士・医師の立場から、日々の診療の事例なども交えてお話していただきました。
肺炎＝禁食治療としてしまいがちですが、今は食べて治す時代なのだそうです。口腔環境の評価、食形態・姿勢・食器などの工夫、口腔ケア・訓練実践など、最期まで口から食べられるように日頃から取り組んでいくことが大切だということを教えていただきました。
貴重な講演ありがとうございました。

アンケート結果

回収率:84.6%(アンケート配布:39名、回収:33名)

なんケアの会に参加して
いかがでしたか?



今後、地域での活動に
活かすことができそうですか?



皆様からのご意見・ご感想

とても素晴らしい口腔ケア・リハビリを実施していると感服しました。これらのケアを入院せずに受けられる環境があれば、地域における健康増進にかなり効果がでると期待します。

在宅でのケアに、可能な限りバックアップいただけると心強いです。
(地域包括支援センター)

「肺炎は食べて治す」という言葉は衝撃でした。口腔ケアは寝たきりの方のイメージでしたが、予防的には健常な状態の段階からはじめて良いと感じられました。
(介護支援事業所関係者)

食べる楽しみが継続できるよう、利用者さんとの会話時には会話＋口腔チェックもしていきたいと思えます。
(介護支援事業所関係者)

会場の様子



講師の小林先生



摂食嚥下のメカニズムの説明が具体的で、理解できた。摂食嚥下の評価ができると、今後利用者の評価ができると思った。その上で、主治医へ説明等ができ、疾病の予防につなげたいと思った。
(介護支援事業所関係者)

会話しないことで嚥下機能の低下になる。独居の方は会話の機会も少なく、食事の様子も誰かが見ているわけではないので注意しようと思う。
(介護支援事業所関係者)

次回開催の
お知らせ

開催日時：令和5年6月2日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」